

『富士見十三州輿地全図』

この地図はかつての国々のうち、富士山を望めるかつての十三国を示しており、富士山の丸い形は下部に描かれています。この十三国は、富士山が立つ甲斐と駿河、江戸（現在の東京）を取り囲む「関八州」、伊豆、信濃、遠江です。

この地図は、江戸の住民たちの間で富士信仰がかつてない人気を博していた時期のさなか、1843 年に出版されました。芸術家の北斎（1760–1849）もこの時期に『富嶽三十六景』という浮世絵の連作を発表しています。この地図に注がれた労力は、当時の富士山に対する関心の高まりを反映しています。この地図は非常に人気があったようで、何度も版が重ねられたため、多くの枚数が現存しています。